

超高齢社会に対応可能な交通費助成制度及び
高齢者福祉施策のあり方に関する市民意識調査
結果報告書 (速報版)

平成 28 年 1 月
生駒市

目 次

I	調査の概要.....	1
	（1）調査の目的.....	1
	（2）調査対象.....	1
	（3）調査期間・方法.....	1
	（4）回収状況.....	1
II	調査結果.....	2
	1. 属性.....	2
	設問 1 回答者の属性について.....	2
	2. 高齢者交通費助成制度について.....	5
	設問 2 高齢者交通費助成制度の利用について.....	6
	設問 3 高齢者交通費助成制度についての考え.....	13
	設問 4 より効果的な高齢者福祉施策について.....	15
	設問 5 自由意見.....	17

I. 調査の概要

(1) 調査の目的

高齢化が進む中、介護予防や認知症予防にかかる普及啓発や各種事業の拡充が必要とされています。本調査は、これまで70歳以上の高齢者に一律に配布されてきた1万円分の電車、バス、タクシー等の交通費助成について、市民の考えを把握し、来る超高齢社会に対応可能な高齢者保健福祉施策として現行の制度を見直し、検討するために実施しました。

(2) 調査対象

住民基本台帳から20歳代以上の市民を層化無作為抽出により、対象者に対し調査票を送付しました。

(3) 調査期間・方法

平成27年11月20日から平成27年12月4日まで郵便による配布・回収を行いました。

(4) 回収状況

配布数	回収数	回収率
3,000	1,545	51.5%

※注：グラフ中の「n」は、回答者数（実数値）を表しています。

構成比については、小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

また、記述回答については、非該当等の記述も取り上げている（或いは該当しながら記述がない場合がある）ため、回答件数がグラフの数値と一致しない場合があります。

Ⅱ. 調査結果

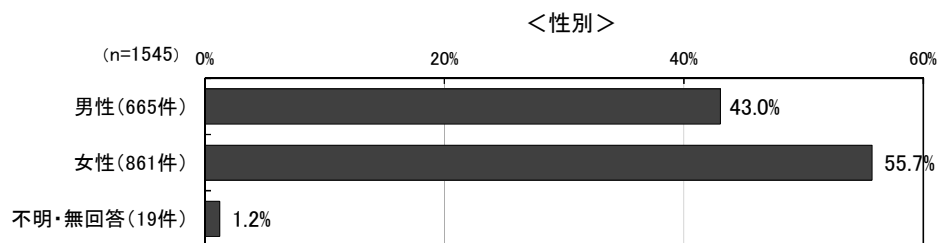
1. 属性

設問1 回答者の属性について

回答して下さるあなたご自身のことについてお聞きます。

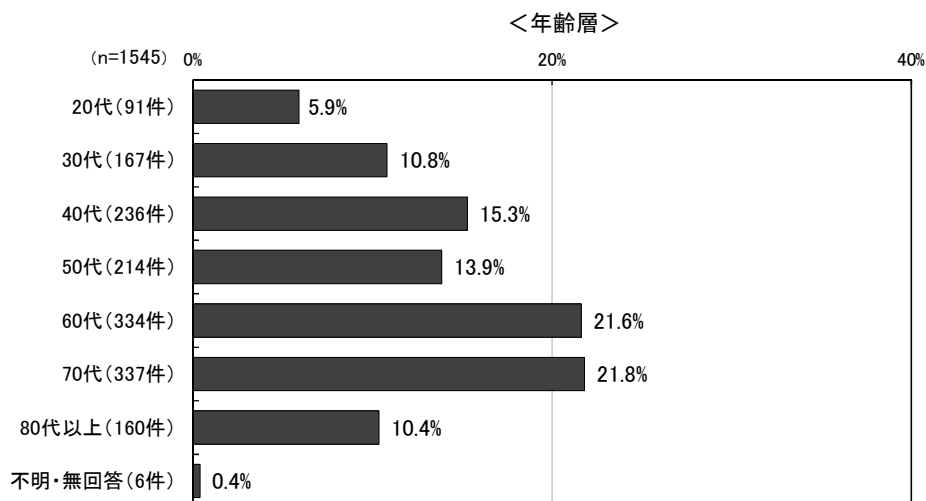
(1) 性別

性別についてはグラフの通りで、「女性」55.7%、「男性」43%と女性の方が回答件数が多くなっています。



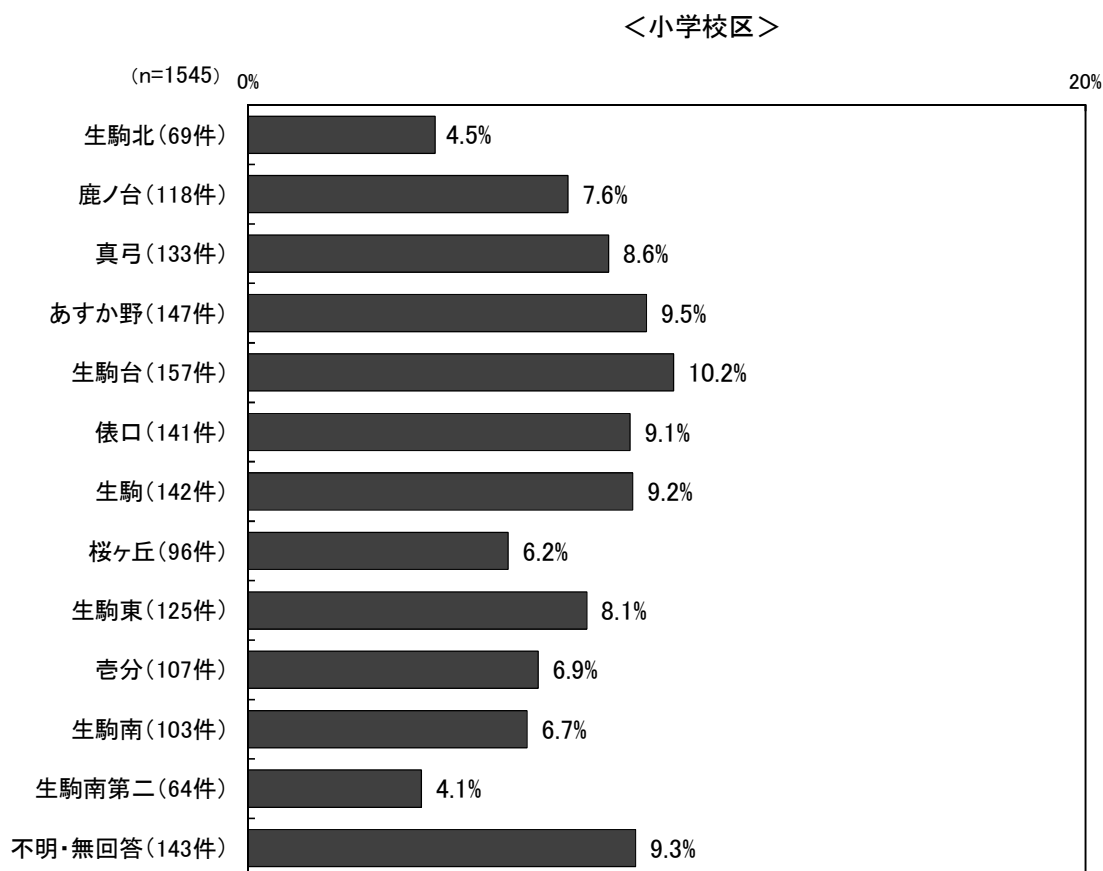
(2) 年齢層

年齢層についてはグラフの通りで、「70代」が21.8%で最も多く、次いで「60代」21.6%、「40代」15.3%の順となっています。「20代」が最も少なく5.9%に留まっています。



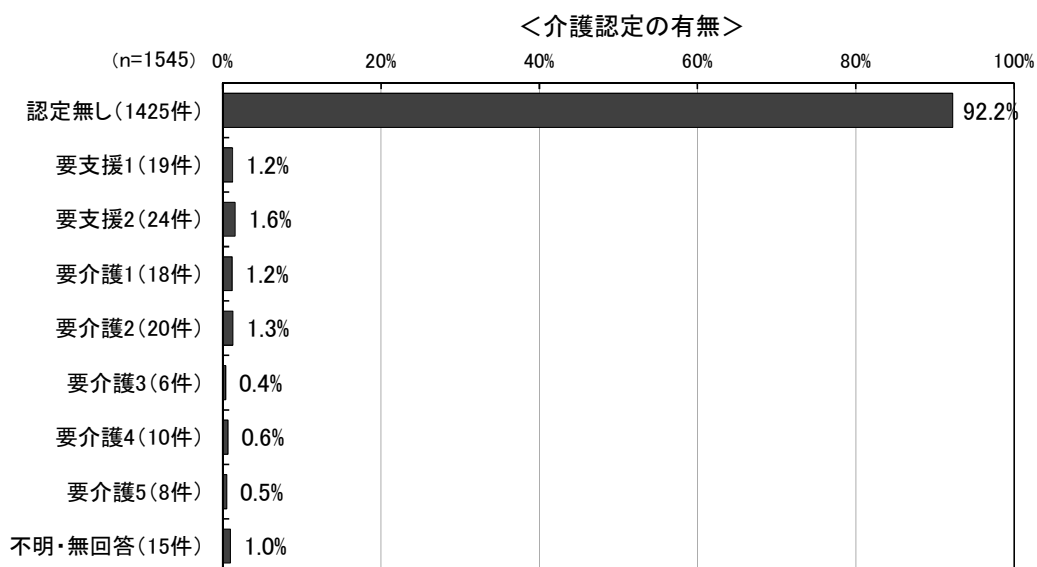
(3) 小学校区

回答者の小学校区別割合はグラフの通りとなっています。



(4) 介護認定の有無

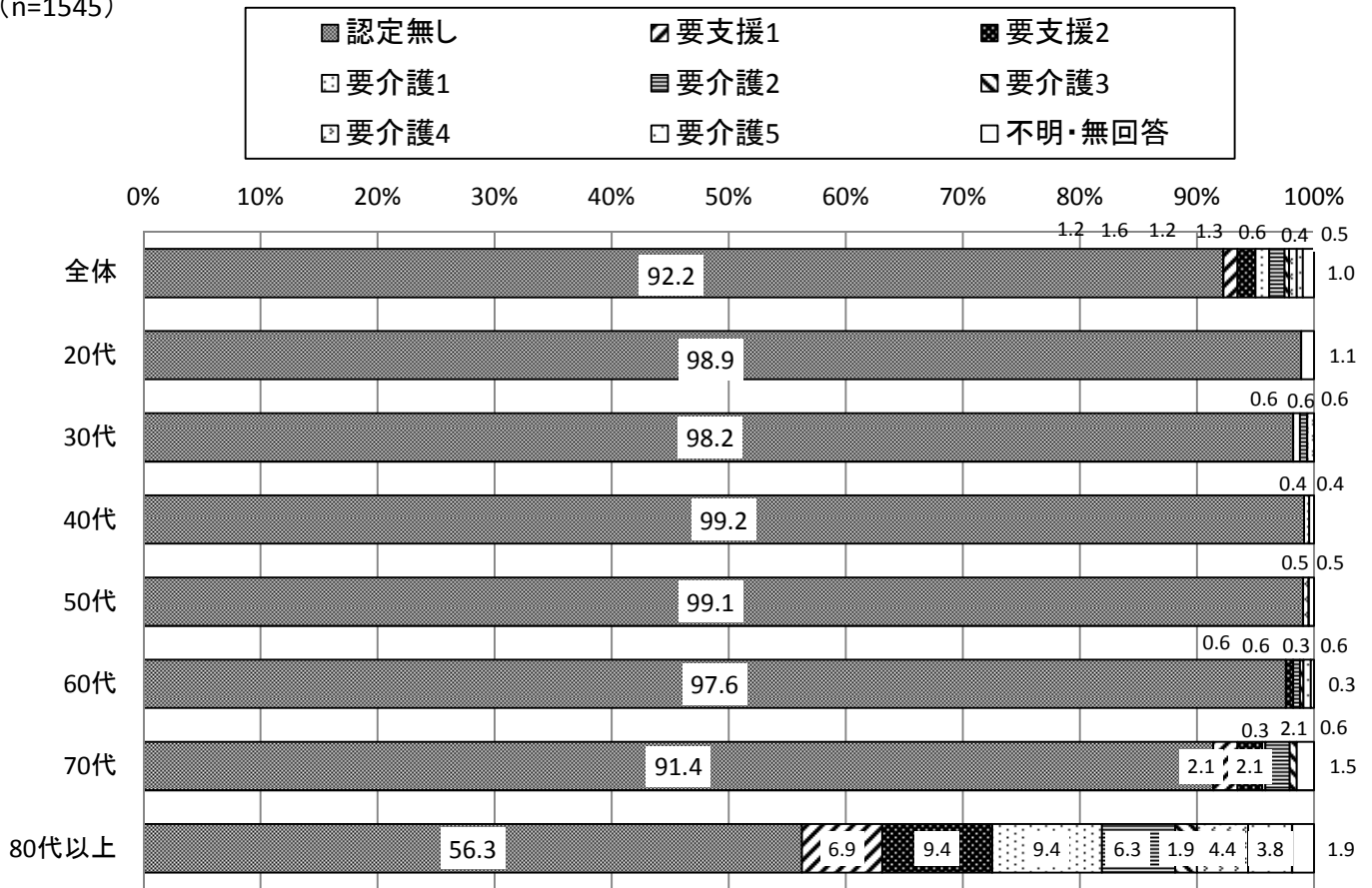
介護認定の有無についてはグラフの通りで、「認定無し」が92.2%を占めています。



◆年齢別

年齢別にみると、「80代以上」で介護認定を受けている割合が高く、その内訳は「要支援2」「要介護1」がそれぞれ9.4%、次いで「要支援1」が6.9%、「要介護2」が6.3%となっています。

(n=1545)



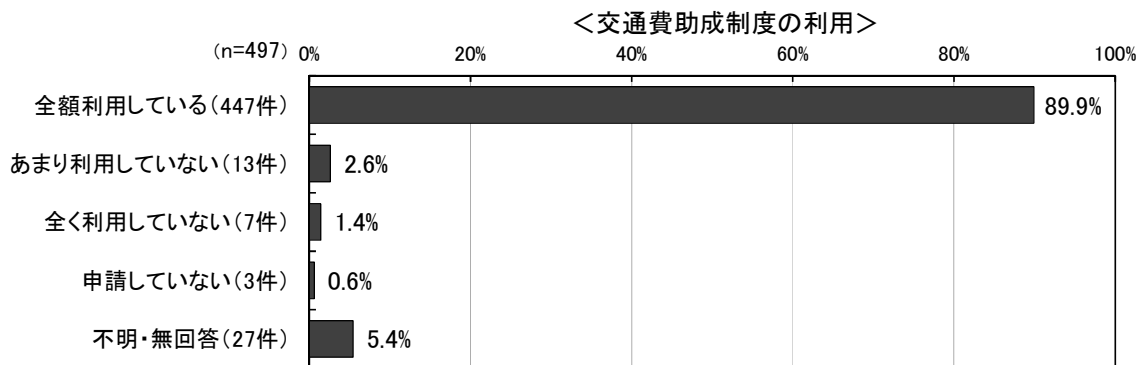
2. 高齢者交通費助成制度について

設問 2 高齢者交通費助成制度の利用について

高齢者交通費助成対象者（70 歳以上）の人にお聞きします。

(1) 交通費助成制度について、どのように利用していますか。

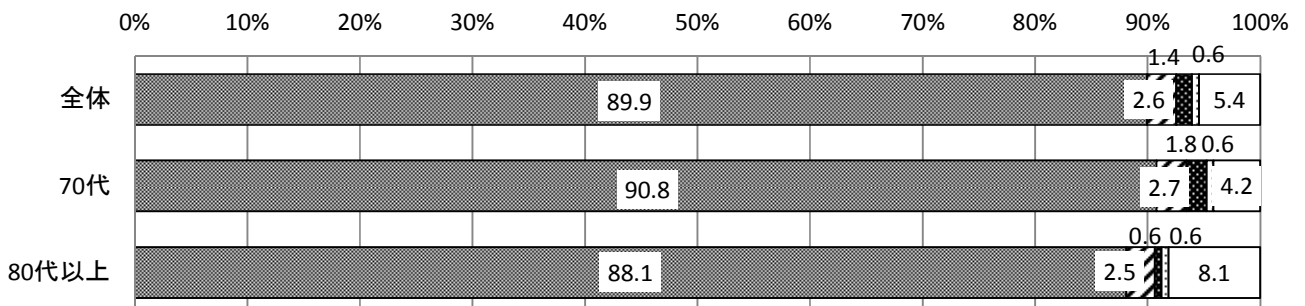
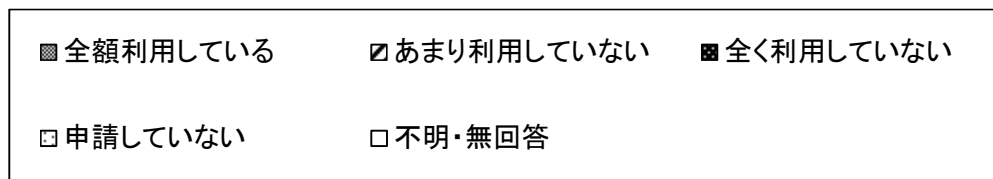
「全額利用している」が 89.9%で約 9 割を占めています。しかし、「あまり利用していない」2.6%、や「全く利用していない」1.4%、「申請していない」0.6%という回答もありました。



◆年齢別（70 歳以上）

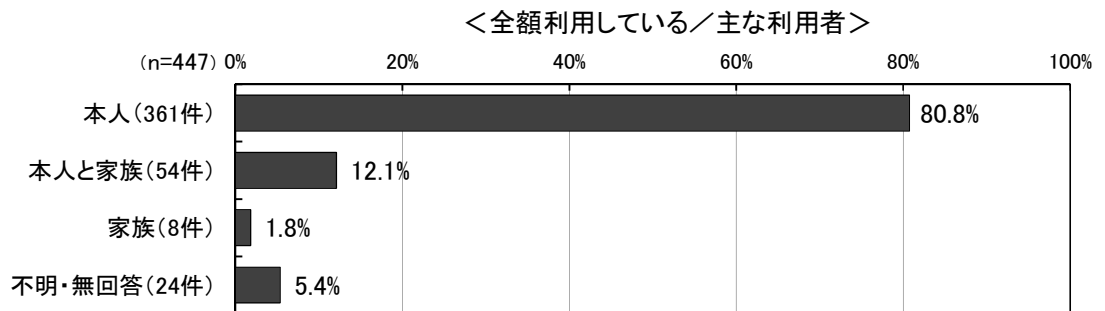
年齢別にみると、「80 代以上」で「不明・無回答」が多くなっているものの、「全額利用している」がともに 9 割に近く、高い割合となっています。

(n=497)



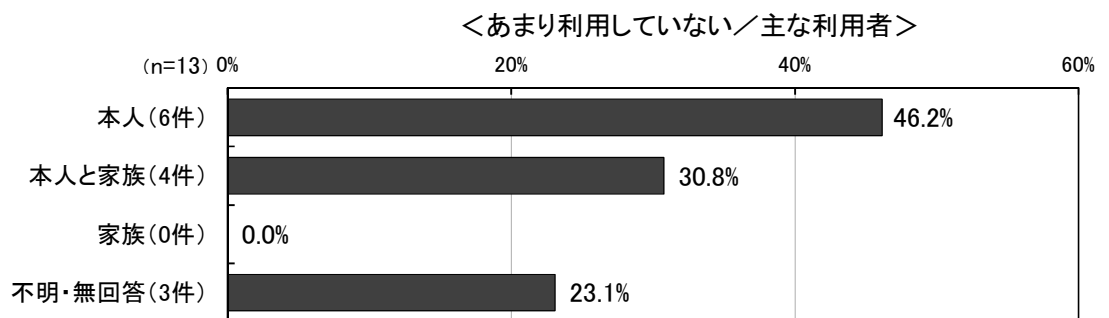
<主な利用者／全額利用している>

「全額利用している」と回答された主な利用者については、「本人」が80.8%で最も多く、次いで「本人と家族」が12.1%となっています。



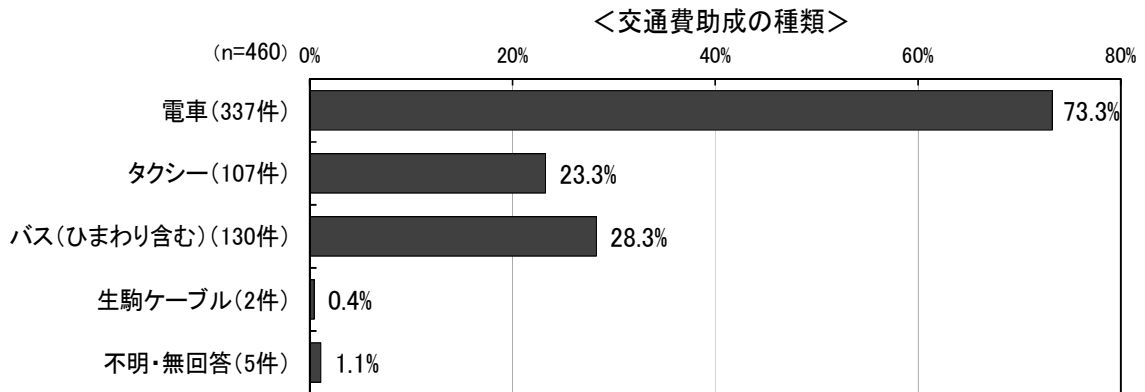
<主な利用者／あまり利用していない>

「あまり利用していない」と回答された主な利用者については、「本人」が46.2%、「本人と家族」が30.8%となっています。



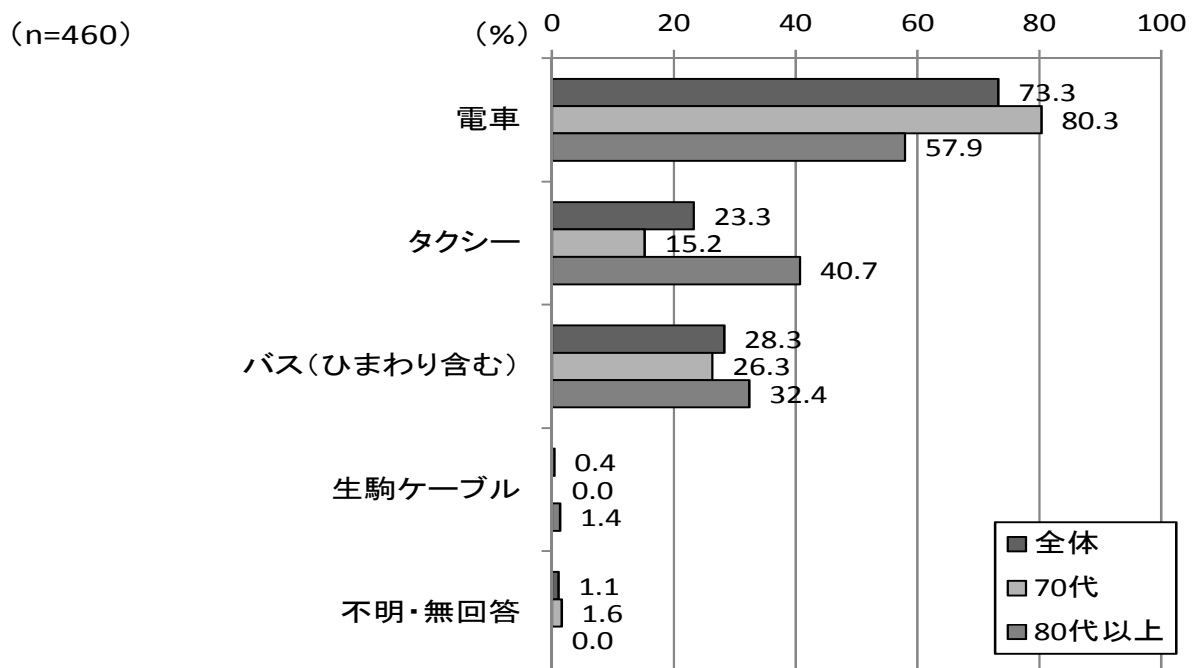
(2) 設問2の(1)で①と②と答えた人にお聞きします。どの交通費助成を選びましたか(1つか組み合わせの場合は2つ選んでください)。

「電車」が73.3%で最も多く、次いで「バス(ひまわり含む)」28.3%、「タクシー」23.3%の順となっています。



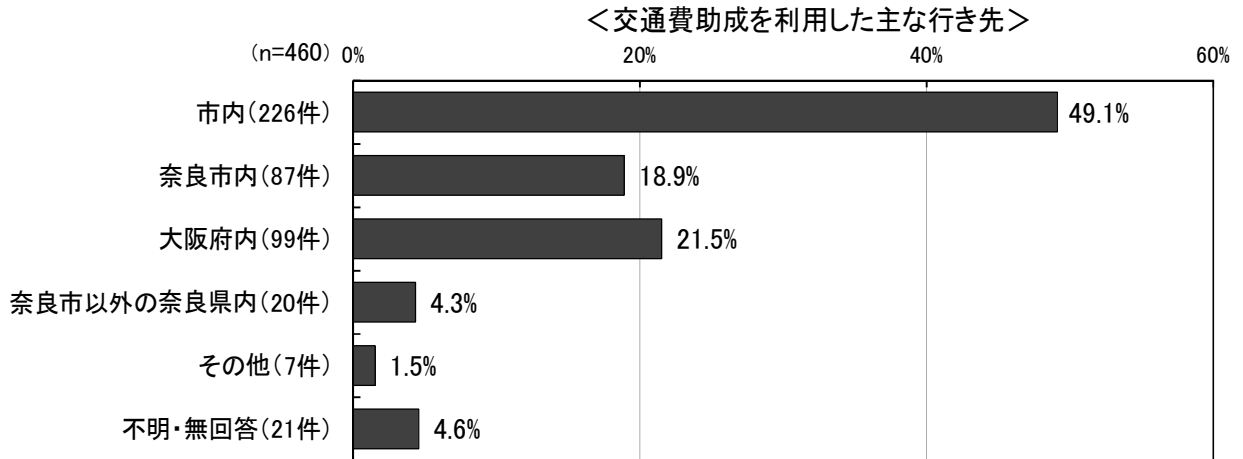
◆年齢別(70歳以上)

年齢別にみると、「70代」で「電車」の割合が「80代以上」より22.4ポイント高く、「80代以上」では「タクシー」の割合が「70代」より25.5ポイント高くなっています。



(3) 設問2の(1)で①と②と答えた人にお聞きします。交通費助成を使った際の主な行き先はどちらですか。

「市内」が49.1%で最も多く、次いで「大阪府内」21.5%、「奈良市内」18.9%となっています。「奈良市以外の奈良県内」については4.3%という結果でした。



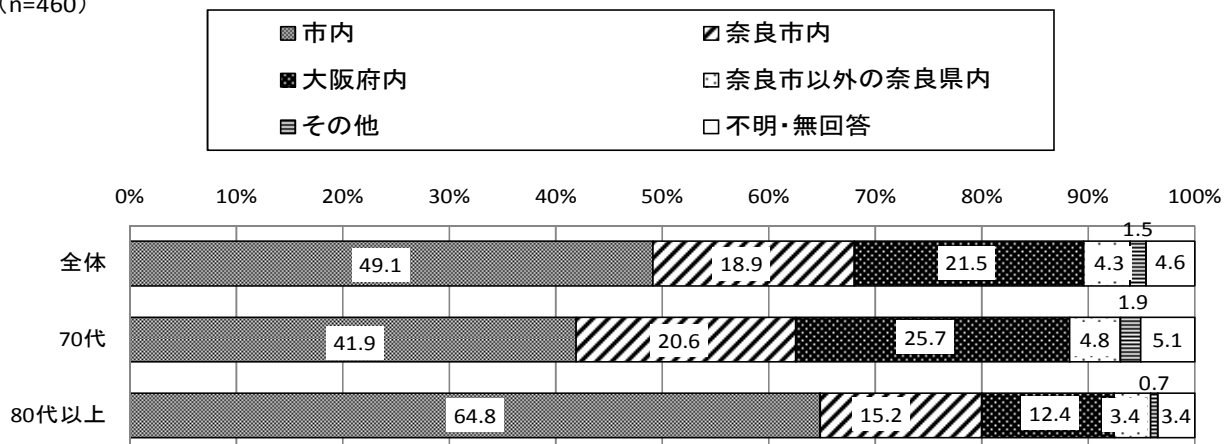
＜その他の記述回答＞

- ・外出が多いので便利に使用しています。
- ・京都（4件）
- ・兵庫・神戸（2件）
- ・墓参等
- ・あちこち・どこにでも（3件）
- ・病院（4件）

◆年齢別（70歳以上）

年齢別にみると、ともに「市内」が最も多いものの、「70代」で「大阪府内」、「80代以上」で「市内」の割合がそれぞれ比較的高くなっています。

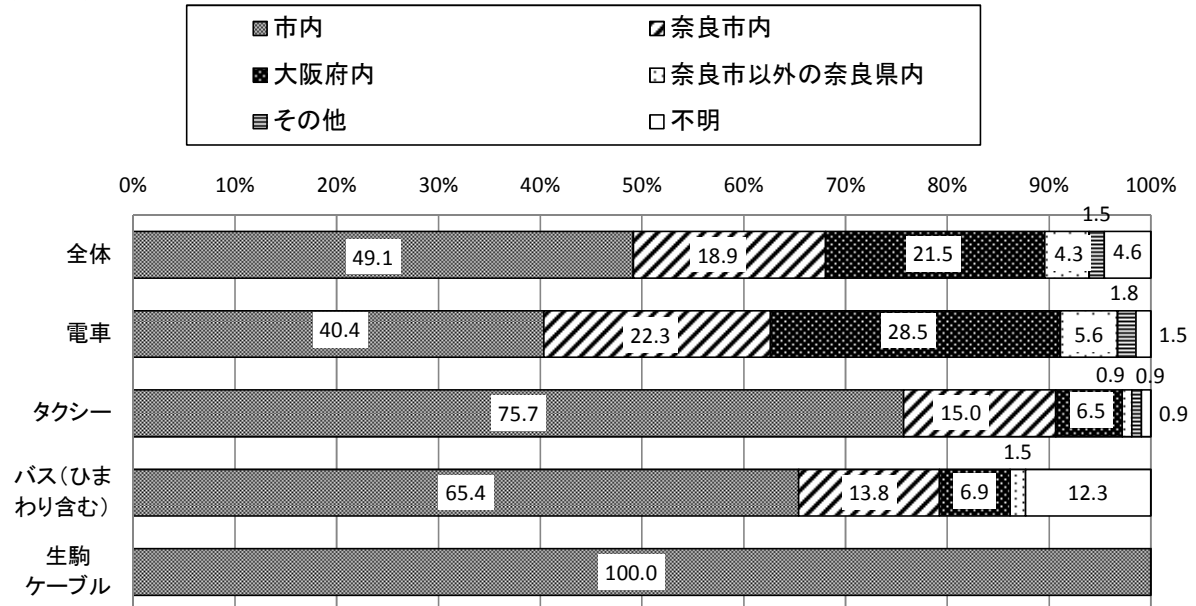
(n=460)



◆交通費助成の種類別

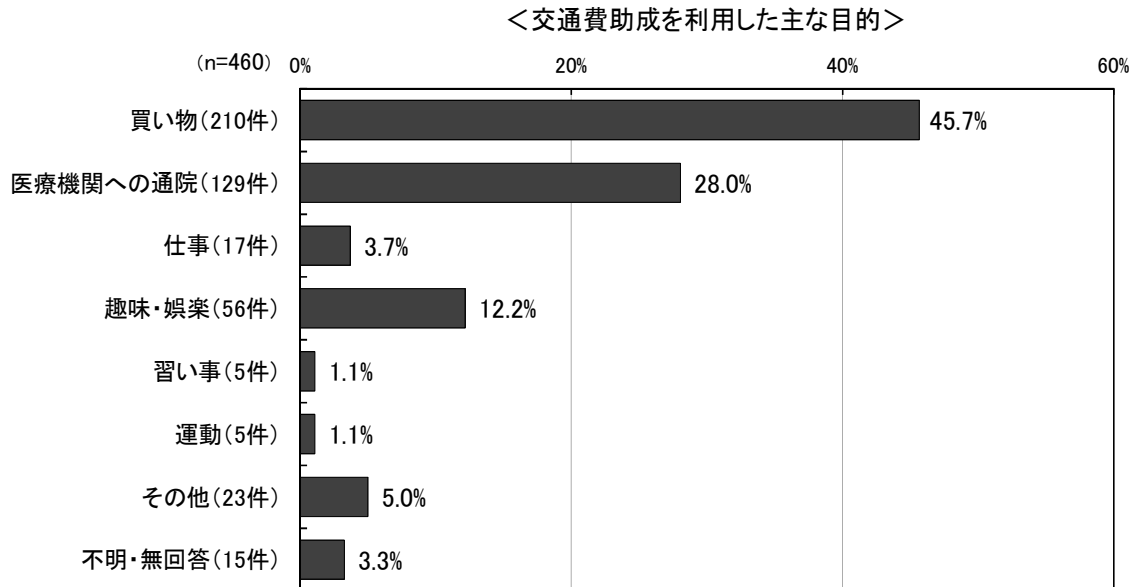
交通費助成の種類別にみると、「電車」では「大阪府内」の割合が高く、「タクシー」「バス（ひまわり含む）」では「市内」の割合が高くなっています。

(n=460)



(4) 設問2の(1)で①と②と答えた人にお聞きします。交通費助成を使った主な目的はなんですか。

「買い物」が45.7%で最も多く、次いで「医療機関への通院」28.0%、「趣味・娯楽」12.2%の順となっています。

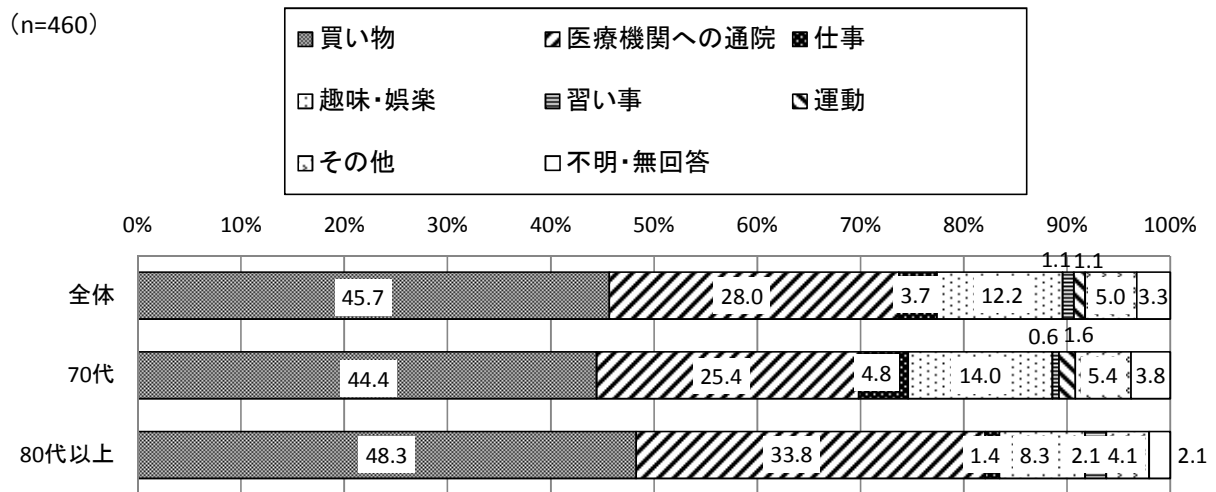


＜その他の記述回答＞

- ・すべて。
- ・色々と使用させて頂いています。（他方面）
- ・会合・ボランティア・サークル活動等（7件）
- ・ハイキング（2件）
- ・ふれあいセンター浴場週5回行きます。
- ・友人・知人に会う（5件）
- ・親戚訪問、墓参り（6件）
- ・リハビリ、病院、お見舞等（4件）
- ・駅

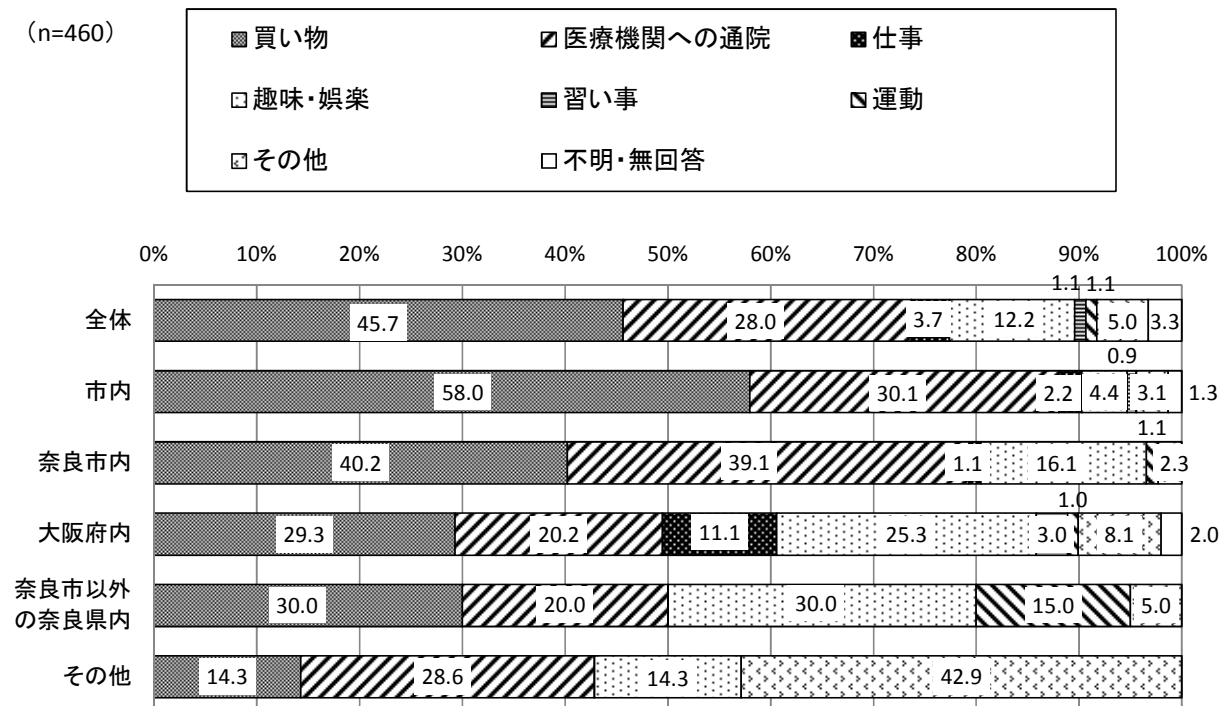
◆年齢別（70歳以上）◆

年齢別にみると、「80代以上」で「医療機関への通院」が多く、「70代」より8.4ポイント高くなっています。



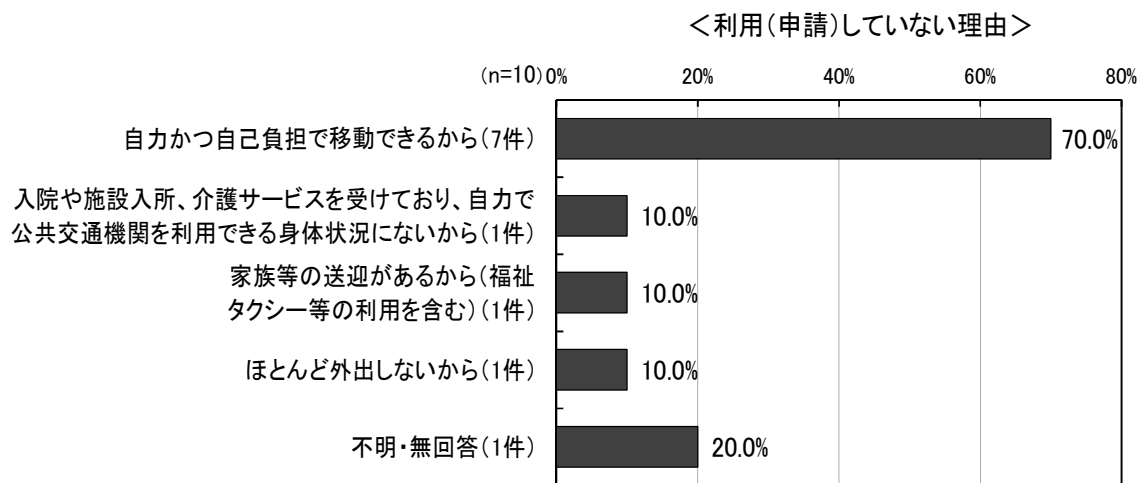
◆主な行き先別

主な行き先別にみると、「市内」では「買い物」が半数を超えて最も多く、「奈良市内」では「医療機関への通院」が「買い物」と同程度に多く39.1%となっています。また「大阪府内」では「仕事」が11.1%と比較的多くなっています。



(5) 設問2の(1)で③と④を選んだ人にお聞きします。その理由はなぜですか。

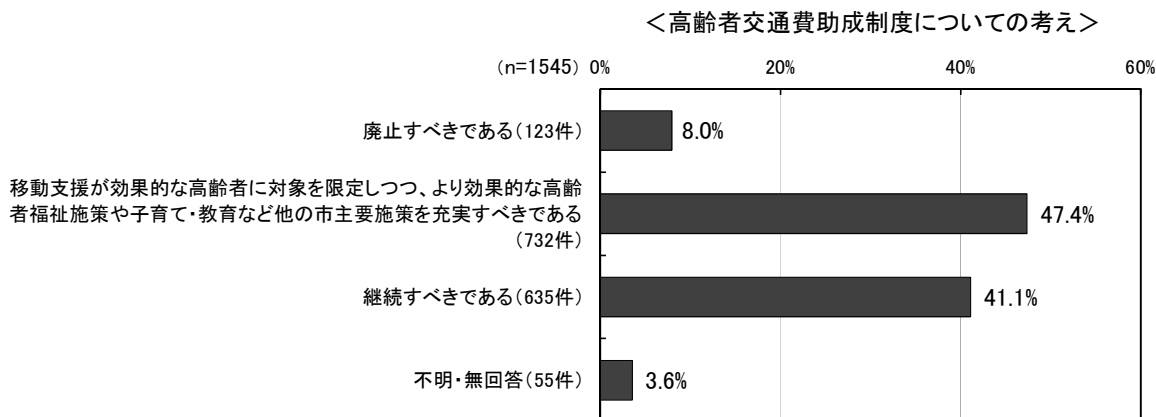
「自力かつ自己負担で移動できるから」が最も多く、70.0%となっています。



設問3 高齢者交通費助成制度についての考え

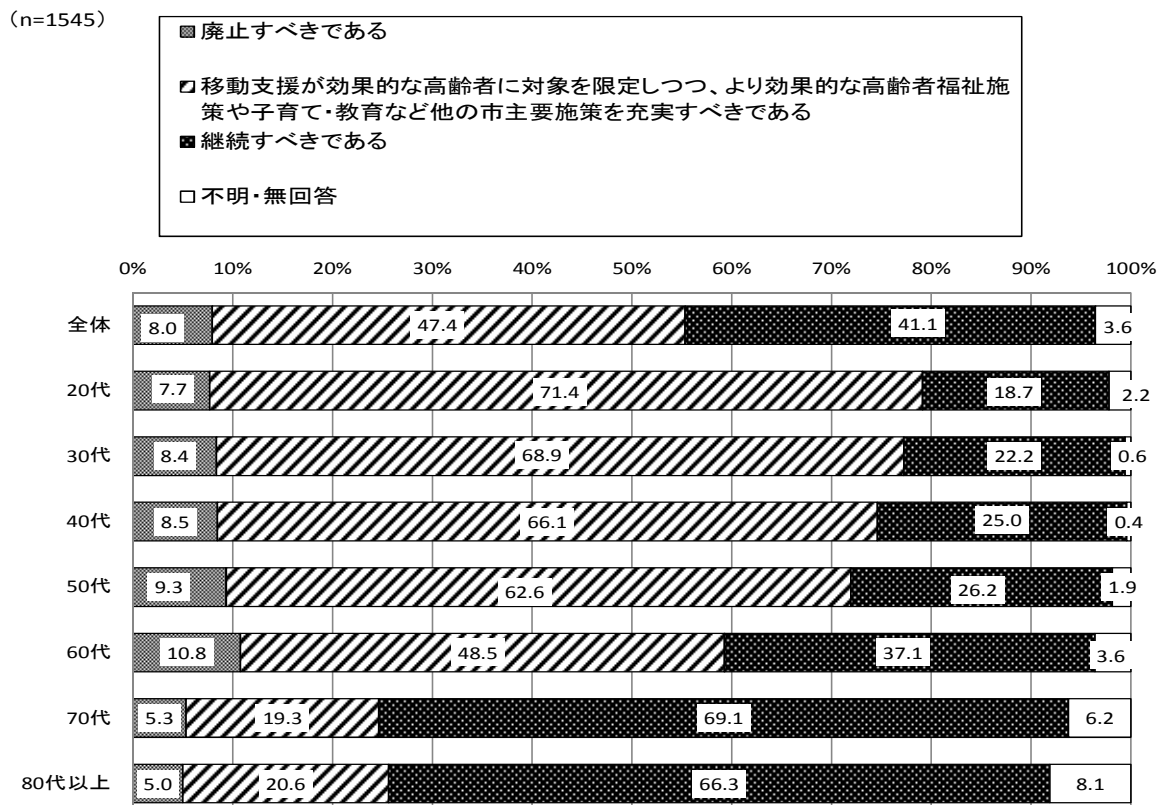
全ての人にお聞きします。高齢者交通費助成制度についてあなたの考えをご記入ください。

「移動支援が効果的な高齢者に対象を限定しつつ、より効果的な高齢者福祉施策や子育て・教育など他の市主要施策を充実すべきである」が47.4%で最も多く、次いで「継続すべきである」が41.1%となっています。「廃止すべきである」に回答した人は8.0%でした。



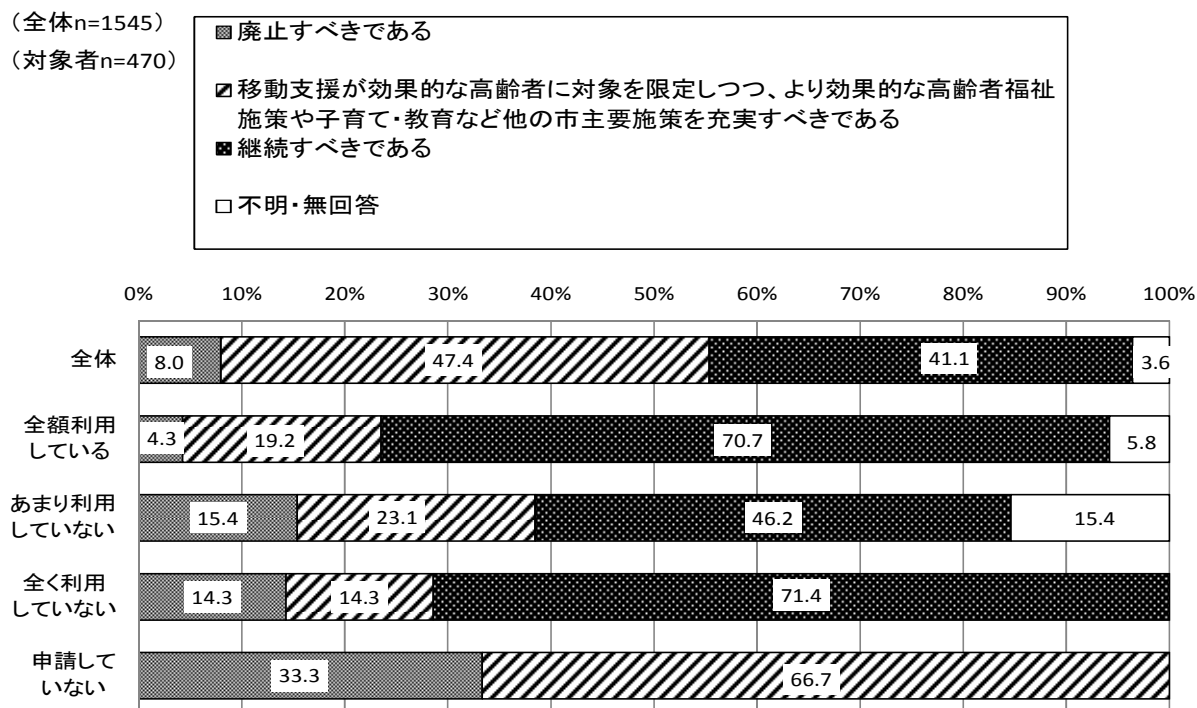
◆年齢別

年齢別にみると、年代が上がるほど「継続すべきである」の割合が高くなり、制度の対象となる「70代」では69.1%、「80代以上」では66.3%となっています。一方で「廃止すべきである」についても「60代」までは年代が上がるほど割合が高くなる傾向にあり、「60代」では10.8%となっています。



◆交通費助成対象者の利用別

交通費助成制度対象者の利用別にみると、「継続すべきである」について、「全額利用している」で70.7%、また「全く利用していない」でも71.4%と多くなっています。また、「廃止すべきである」については、「申請していない」で33.3%、「あまり利用していない」で15.4%、「全く利用していない」で14.3%となっています。



<記述回答・廃止すべき理由> (※回答内容の詳細は別紙参照)

廃止すべき理由についての記述回答では、平等性への疑問や助成の限定に関する意見が42件、他世代への支援や負担軽減に回すべきという意見が22件寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

◆廃止すべき理由

キーワード分類	件数
平等性・助成の限定	42
他世代への支援・負担軽減	22
代案・改案	15
市の財政面	14
その他	19
わからない	3
件数合計	115
回答者数	112

<記述回答・継続すべき理由>（※回答内容の詳細は別紙参照）

継続すべき理由についての記述回答では、外出促進・移動支援に有効であるという意見が164件、生きがい・健康維持につながるという意見が95件、経済的に厳しいからという意見が89件、現在利用しているからという意見が43件寄せられました。以下内訳は下表の通りとなっています。

◆継続すべき理由

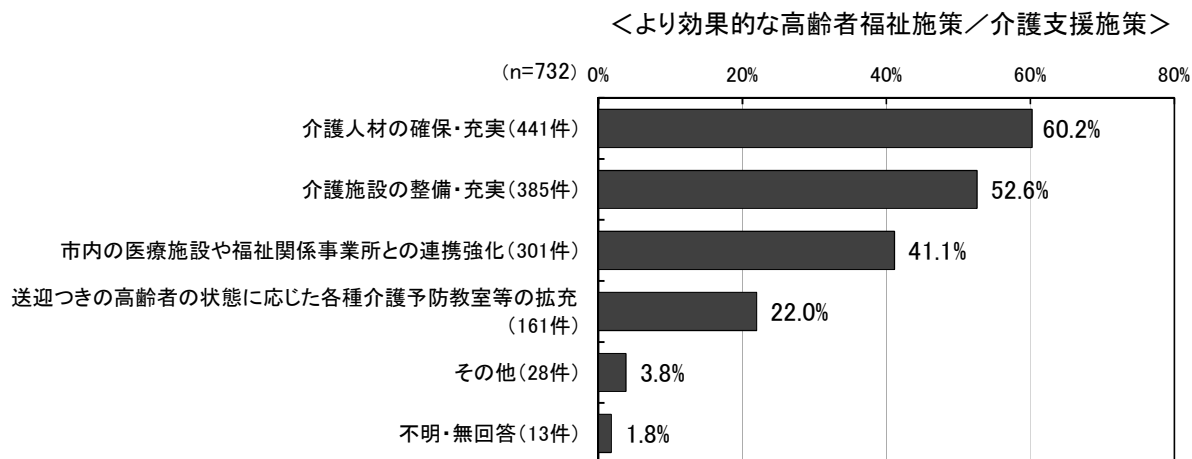
キーワード分類	件数
外出促進・移動支援	164
生きがい・健康維持	95
経済的理由	89
現在利用	43
改案	40
事故防止	21
将来の利用	8
高齢化の進行	2
必要である・その他	41
件数合計	503
回答者数	477

設問4 より効果的な高齢者福祉施策について

設問3で、②を選んだ人にお聞きします。
より効果的な高齢者福祉施策として、以下のそれぞれの施策の中で重要なものをお選びください。

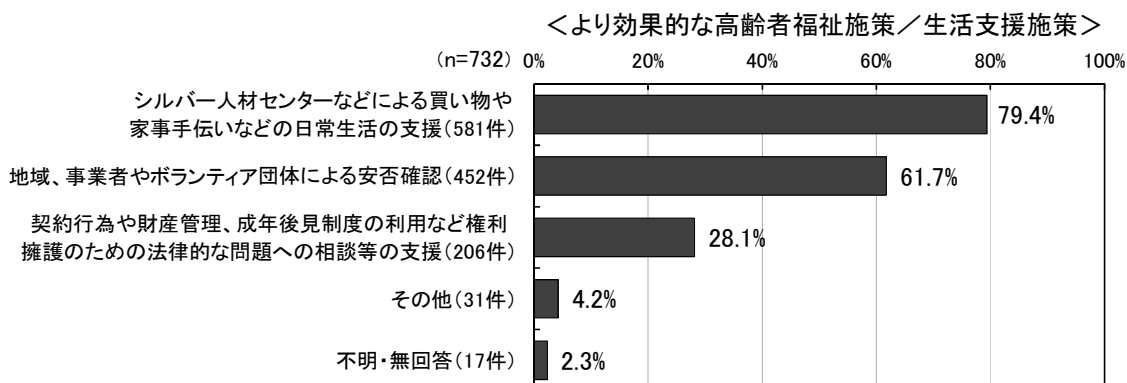
(1) 介護支援施策（2つまで選んでください）（※その他の記述内容は別紙参照）

「介護人材の確保・充実」が60.2%で最も多く、次いで「介護施設の整備・充実」52.6%、「市内の医療施設や福祉関係事業所との連携強化」41.1%、「送迎つきの高齢者の状態に応じた各種介護予防教室等の拡充」22.0%となっています。



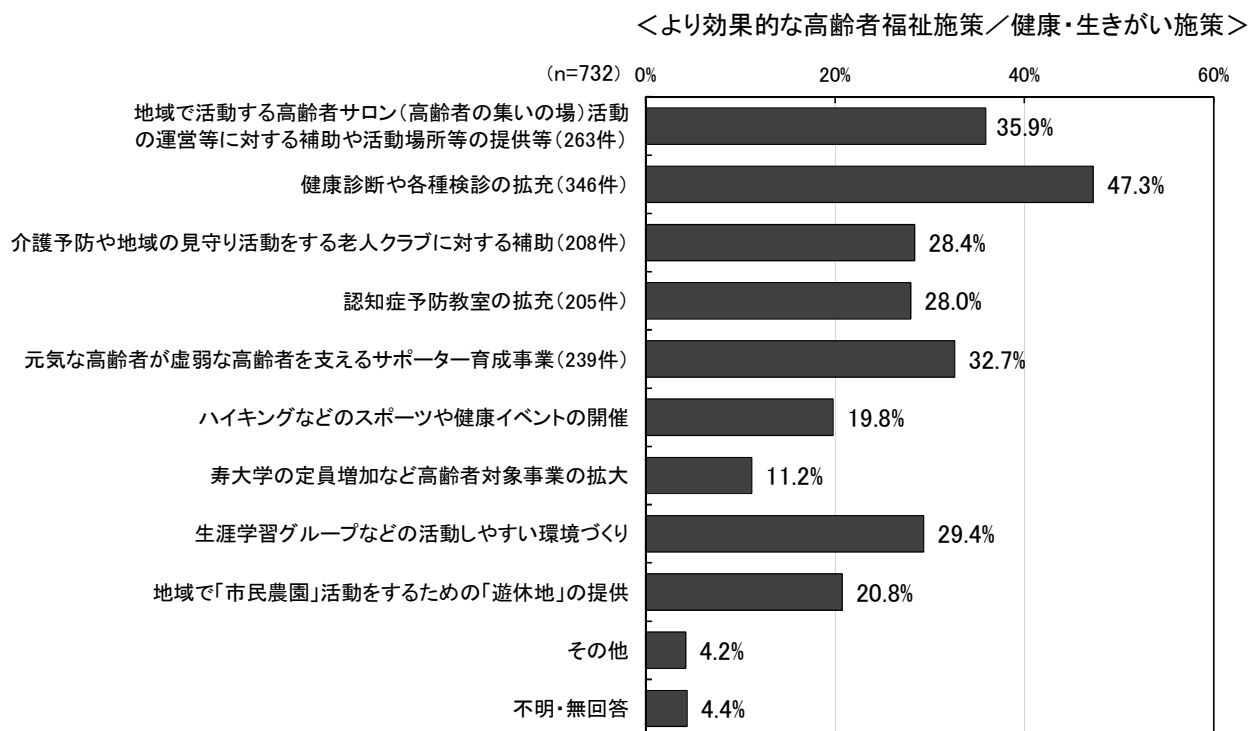
(2) 生活支援施策（2 つまで選んでください）（※その他の記述内容は別紙参照）

「シルバー人材センターなどによる買い物や家事手伝いなどの日常生活の支援」が79.4%で最も多く、次いで「地域、事業者やボランティア団体による安否確認」61.7%、「契約行為や財産管理、成年後見制度の利用など権利擁護のための法的な問題への相談等の支援」28.1%の順となっています。



(3) 健康・生きがい施策（3 つまで選んでください）（※その他の記述内容は別紙参照）

「健康診断や各種検診の拡充」が47.3%で最も多く、次いで「地域で活動する高齢者サロン（高齢者の集いの場）活動の運営等に対する補助や活動場所等の提供等」35.9%、「元気な高齢者が虚弱な高齢者を支えるサポーター育成制度」32.7%の順となっています。



(4) その他の施策については、130件の記述回答が得られました。

設問5 自由意見

その他、交通費助成制度や高齢者福祉施策についてご意見がありましたらご自由にお書きください。

自由意見については、525件の回答を得られました。

本調査に直接関わる交通政策や助成制度に関する意見が280件で最も多く、次いで高齢施策に関する意見が合計で152件、中でも健康・生きがい施策に関する意見が多く寄せられています。以下内訳は下表の通りとなっています。

◆自由意見

キーワード分類	件数
交通政策・助成制度	280
高齢施策	
全般	41
介護支援	31
生活支援	13
健康・生きがい	67
若者・子育て・教育支援	39
行財政改革等	37
医療・保健・福祉	7
その他	41
分類件数 計	556
回答者件数	525

【主な意見】

- ・ 交通費助成制度はとてもありがたく今後も続けてほしい。
- ・ 交通費助成制度を利用できる人は元気な人。そうでない人への生活支援をきちんと考えてほしい。
- ・ たけまる号などの移動手段を増やし、自立を促すべきである。
- ・ 高齢化の進展に伴い見直しは必要だが、やはり現状を考えるとそのまま続けてほしい。
- ・ タクシーはある程度高齢者が利用していると考えられるが、電車、バスは誰でも利用でき、高齢者への支援といえない。廃止して真に高齢者に役立つ施策に税金を使ってほしい。
- ・ 費用が高んでいくので継続は難しいと思っているが、できることなら続けてほしい。
- ・ バスの便が悪い地域にこそ市のバスを運航してください。
- ・ 高齢者を手厚く支援している反面、若い世代は負担が大きいことを忘れないでください。
- ・ 市、警察、介護スタッフ等が連携して認知症の方への徘徊などにも対応できる支援が必要。
- ・ 介護の必要な人には各種の助成が必要であるが、元気な高齢者まで助成するのは無駄使いである。
- ・ 高齢者は若い人達に比べ優遇されていると思うので、限られた財源はもう少し若い人達の為に支出されるべきであると思います。
- ・ 財政的に持続可能な施策の構築をお願いする。
- ・ 高齢者の増加に伴い、認知症の人が増えていく中で、本当に支えあえるまちづくりとは何か・・・。
弱者救済が基本であるが、互助による地域での活動が重要であると思う。